

穂高岳山頂から見る朝日

## 霊性は日常の歩みで練られる

わたしは、モーセとともにいたように、あなたとともにいよう。  
わたしはあなたを見放さず、あなたを見捨てない。  
ヨシュア1:5・6



ミッション・宣教の声 主幹  
黒田 禎一郎

新年のごあいさつを申し上げます。2022年が神とともに歩む幸いな年となりますようお祈りします。

キリスト者にとって霊性は大切です。霊的な人とは、どんな人のことでしょうか。預言や異言を語る人でしょうか。パウロは、私たちのからだを生きた供物として捧げることと言いました(ローマ12:1)。霊性は日常の日々を通して練られ、日常生活を通して現れるものです。

ヨセフは奴隷として売られましたが、絶望の淵から新しい歩みへと霊性が練られていきました。無実の罪で投獄され、閉ざされた状況で、開かれた天を見上げ、囚人たちとの歩みを経て霊性が練られていきました。度重なる苦難の歩みこそが、生きた供え物として捧げられた土台でした。ダビデは羊を飼っていたときも、ゴリヤテの前に立ったときも、バテシェバとの間に生まれた最初の子が死んだときも、日常の生活の中で起こりました。その人にとって事の大小や損得ではなく、神が置かれた日常生活に没頭するときに霊性が練られていくのです。

南アフリカのマンデラ元大統領は牢獄で27年間過ごしましたが、牢獄は彼を破壊できませんでした。これは、かつてシ

ベリヤの強制労働収容所に送られた聖徒たちも証言する事実です。人生で最も偉大な栄光は、一度も失敗しないことではなく、失敗するたびに再び立ち上がるところにあります。悲痛や苦難の日々が、人の霊性を練り上げていくのです。そして美しい波紋を起こします。

私たちが置かれた日々の生活は、神が与えてくださる驚くべき霊性が練られる現場です。その日常生活を逃れてどこかへ行ったとしても、神から逃れることはできないと知っているならば、今ある現場こそが最高の霊性訓練の場であることに気づかされます。私たちの一挙一投足が神の目に入っています。人生のすべての瞬間が、私の霊性が練られるための最高の瞬間です。ですから、日常生活に押しつぶされるのではなく、置かれた日常生活に没頭(忠実・従順)する歩みが大切です。日常生活の霊性が練り出す美しさと、そこから放たれる香りが神の国の証しとなります。主は日々の歩みの中で、「わたしはあなたを見放さず、あなたを見捨てない。強くあれ、雄々しくあれ」と、語っておられます。あなたにとって2022年が、主にあって霊性が練られる年となりますように。

# コロナ禍の海外邦人宣教 14

## ニューヨーク周辺邦人宣教

ニューヨーク恵み教会 牧師 笹川雅弘

ニューヨーク・マンハッタンへの通勤圏内には約8万人の日本人が在住しています。彼らを主のもとへと導くため、リーベンゼラ世界宣教会(LMI)の邦人宣教の働きとして、1990年から私たちの教会は働きを開始し今年で30年目を迎えました。私自身は6年半のアメリカでの駐在員生活を含む17年間をビジネスマンとして過ごした後に献身し、16年間日本の教会で伝道牧会を行った後、主の召しに従い今年からアメリカ・ニューヨーク州に移り住み主に仕えることとなりました。

### 住みづらさが増し加わる中で

私がかつてアメリカで過ごしていた二十数年前と比較して今のアメリカは、一昨年の大統領選挙から顕著になった国家レベルでの価値観の分断、人種差別問題、それに多くの犠牲者を出したコロナ禍が加わり、どこかピリピリした感じが蔓延しているのを感じます。人の集まりに厳しい制限がかかり、その中でストレス解消のために何か楽しい経験を求めるという駐在員家族の傾向が強まる中、宣教活動にも新しい創意工夫が求められてきています。

### さまざまな試みの中で 到来したパンデミック

コロナ禍以前に力を入れていたのは、ゴスペル伝道、子どもバイブルキャンプ、英語バイブルクラスなどでした。ハーレムの黒人教会で本場のゴスペル合唱団を指導するクリスチャンの音楽家を招き、週に一度教会でのリハーサルを二か月ほど行い最後はコンサートで締めるというイベントには、コロナ禍直前には40～50名ほどの参加者(ほとんどが未信者の方)があり、その中から受洗へと導かれる方も起こされました。夏のバイブルキャンプには毎年40名以上の子どもたちが集い、元牧師夫人のアメリカ人がリードする伝道のための英語バイブルクラスも多いときは定員いっぱいの30名ほどが集まりました。これらの活動に手ごたえを感じつつ牧師交代を迎えようとしていた最中、パンデミックが到来。これまでの宣教活動は一切行うことができなくなり、主

日礼拝も一時期はオンラインでしか守ることができなくなりました。



信徒宅にてBBQ

### コロナ禍がもたらした闇と光

パンデミックに伴い前任者帰国後も私の渡米時期は大幅に遅れ、私はビザが発行されないまま今年の一月に日本からオンラインでの牧会を開始しました。宣教活動に大幅な制限がかかる中、収穫もありました。第一に、教会から車で二時間ほど郊外にあるハートフォードという町に住む日本人クリスチャンと求道者たちがZoomで主日礼拝に参加するようになったこと。宣教活動と礼拝参加の可能な範囲が大幅に拡大されたことを実感しました。第二に、年明けからZoomでバイブルスタディを開始した求道者に信仰が与えられ、私が渡米した月の翌月のペンテコステに無事受洗へと導かれたことです。その後の受洗後の学びも、最近受洗された方数名も加わりZoomで行っています。距離や環境を超えて個人的な面談、学び、集会が行えるようになったことは収穫でした。

### アフターコロナへ向かって始動

昨年の春以降ニューヨーク州は条件付でコロナ禍以前の通常活動へ戻り、私たちもゴスペル伝道を再開しました。ただ参加人数制限や十分な感染予防対策

は必須です(今回は大人22名、キッズ20名で行っています)。ワクチン接種に対する考え方にも分断がある中、予防対策にも配慮が求められています。子どもバイブル・キャンプも今年は7月11日に教会でのワンデイキャンプという形で行い、17名の子どもたちが集まりました。オンラインによる伝道牧会とうまく組み合わせ、今後は本格的にコロナ禍以前と同水準の宣教活動を行えればと願っています。

### コロナ禍でも送り出し続ける教会

私が渡米した4月から約7か月の間に、1名の受洗者と4名の転入会者が与えられた一方、一家族4名を日本に送り、もう一家族4名をフロリダ州へと送り出しました。多くの方を主のもとへと導きし絶えず送り出すというこの教会の使命(たんぼぼミニストリー)はコロナ禍にあっても続けられています。

### ニューヨークを起点にして 日本人宣教の活性化を

ニューヨークに、企業から選ばれて派遣されて来る駐在員は優秀な人材ばかりです。彼らがクリスチャンとなって帰国した後、すばらしいクリスチャンリーダーとして用いられているという証しは昔から変わりません。また金融都市ニューヨークから諸外国へ異動となる金融マンも少なくありません。ニューヨークを起点として日本人宣教の活性化が世界規模で進んでいくポテンシャルは非常に高いと感じています。ただ物価の高いニューヨークで送り出し続けるための宣教活動が継続されていくためには皆様のご支援が欠かせません。どうか覚えてお祈りくださいますように。(つづく)



渡米直前の笹川牧師夫妻

伝道、プレゼントにもおすすめです。

聖書の集い・連続メッセージ  
「讚美歌詩・聖歌詩の背景から学ぶ信仰」

第1巻～第8巻 刊行

多くの人たちに親しまれている讚美歌詩・聖歌詩の背景にある作詞者の信仰に焦点をあてる励ましのメッセージ集です。

中綴りB6サイズ ¥500 (税別)

ご注文は「ミッション・宣教の声」事務局まで。

その時、わがたましいは歌う  
主幹 黒田 禎一郎

# 海外伝道シリーズ 旧東ヨーロッパの 教会と信者は今

164

ソビエト連邦・ロシア  
黒田 禎一郎

1991年12月26日、マルクス・レーニン主義を掲げたソビエト社会主義共和国連邦は69年の幕を閉じ崩壊しました。国土は南アメリカと東南アジアを合わせた広大な土地でした。一党独裁政権下でキリスト教は最大の敵とされ、キリスト教会とクリスチャンたちは激しく迫害されました。聖徒たちが受けた迫害は「使徒の働き」時代に相当するほどと言われ、無数の聖徒がシベリアの強制労働収容所に送られ、過酷な条件下で厳しい労働を強いられました。中でも独裁者スターリン時代には、どれほど多くの聖徒が命を失ったか、その人数を知る人は誰もいないと言われています。

## あれから40年

「ミッション・宣教の声」は1981年12月に始まりました。当時、多数の地下教会指導者と聖徒たちが迫害下にありました。私の手元には、毎月信仰のために投獄された兄弟姉妹の氏名リストが届き、「とりなしの祈り」の要請が入りました。それが「ミッション・宣教の声」が生まれた始まりです。そこで迫害下の教会と聖徒の様子を伝えるため、私は月刊誌「宣教の声」を書き始めました。第1号は手書きで、それをコピーし配りました。その頃の日本では、迫害と聞いても、大多数の方々が理解できませんでした。そこで、神の不思議な摂理によって「神の生き証人」を日本にお招きしました。火の試練を通られた神の器を通しての集会は、日本各地で開かれ、試練下にある実情を伝えることができました。キリストの御名のために苦難に会った聖徒たちの証しは、私たちに強烈なインパクトを与えました。彼らの信仰は、初代教会時代のパウロや12使徒たちのようようでした。そのようにして「ミッション・宣教の声」は、苦難下にある聖徒と教会に重荷が与え

られてきました。多くの日本のキリスト教会とクリスチャンたちが、苦難と迫害下にある聖徒を覚えて祈り、また尊い愛の献金をお捧げくださり、日本から貴重な働きをしてきました。あれから40年が経過しましたが、毎月機関誌をお届けしていることは恵みでした。

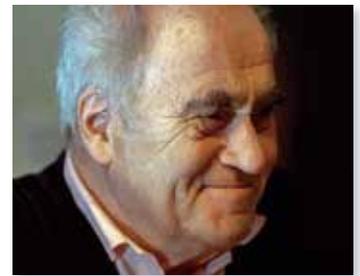


ゲルハルト・ハム師夫妻

振り返れば、迫害の火を通られた御器からのメッセージは強烈でした。一番恵まれたのは、多分通訳した私であったでしょう。キリストの福音を伝えるため、世界各地を駆け巡ったゲルハルト・ハム師、アーノルド・ローゼ師、ダビデ・クラッセン師、ヤコブ・エソウ師、ヨハン・ユント師などの顔が走馬灯のように浮かんでいきます。1人ひとりには実に貴重な体験と証しを持っておられました。彼らはすでに主のもとに召されましたが、キリスト教会と聖徒への迫害は、今日も止むことはありません。私たちは苦難下にある聖徒と教会のために、これからも祈り支援しつづけていきたいと願っています。

## ヴァルター・ペナー師

ここに昨夏、召された私の信仰の友ヴァルター・ペナー師の証があります。彼は第2次世界大戦直後の1945年3月ポツダムで生まれ、母親は生後まもない彼を連れて、200km離れたシベリヤ・ノボシビルスクへ貨車に乗せられて移送されました。ペナー家族が受けた苦難は筆舌で表せないほど悲惨なものでした。当時は、飢餓と疫病のため多数の人々が次々と死亡していききました。彼は15歳のとき北カザクスタンに移動させられ強制労働を強いられましたが、そこでイエス・キリストに出会い救いを経験しました。そして26歳で小さなバプテスト教会の長老に選ばれ、その後神の働きに献身することとなりました。キリスト者としての彼



ヴァルター・ペナー師

の働きは地下秘密印刷所で、神の書である聖書、信仰書を秘密に印刷することでした。

当時、聖書を保持することさえ禁じられた時代、それは非常に危険で発見されれば重罪となった時代でした。しかし、神は彼を秘密印刷所で超危険の中で密かに聖書印刷を実行させました。KGB(秘警察)は彼の居場所を血眼になって探していましたが、彼は神の恵みの下に置かれ奇跡の連続によって守られました。印刷機のチェーンは自転車から、モーターは洗濯機から、各部品は古い家庭電器製品を解体し、それらを組み合わせて手製印刷機を作り上げました。当時はインクも紙も入手できない時代でしたが、神は奇跡によって鉄のカーテンを通過させロシア内に運び入れてくださいました。

1975年、ドイツ系のペナー師は家族とともにドイツへ出国し、ただちにロシアの聖徒たちを支援する宣教団体「フリーデンス・ボータ」(平和の使いの意味)を立ち上げ、ロシアに向けて積極的に伝道活動を開始しました。中でも最も大きなことは、1990年秋にロシア政府から「フリーデンス・ボータ」へ新旧約聖書と子ども聖書を至急送って欲しいという公式文書による依頼が入ったことです。ソ連崩壊により、神は人知で考えられないことを成されました。そのようにして、彼は40年以上にわたり主に忠実に仕えた尊い神の器でした。(つづく)



ロシアの秘密地下印刷所で使われた手製印刷機

## 砂の上に建てた国 — コロナ禍の北朝鮮

新型コロナウイルスが、世界中に蔓延して2年が経過しました。この2年間に、世界各国での感染拡大は瞬く間に広がりを見せ、人類の生命を危険に晒す脅威的存在となっています。ベールに包まれた北朝鮮では、国民たちにとって、コロナ以外にも彼らの生命を脅かすものが様々ありますが、コロナ禍は彼らをさらに追い詰め、より過酷な苦境に立たせています。

### 感染者数「0」

北朝鮮政府は2021年秋までに、累計で4万2千人に対してコロナの検査を実施し、陽性者は一人も確認されていないとWHOに報告しています。WHOからの支援物資は受け入れるものの、ワクチンの受け入れは拒否し、独自の方法で感染を抑えていると主張しています。国内外でコロナ感染者は「0」と宣言し、2021年10月にワクチン1次接種を全住民に実施し、年内には2次接種も実施したとされています。そのワクチンが自国製造か、あるいは不当に得た物であるか、真相は解明されていません。国が海外製ワクチン受け入れると、接種状況の視察に海外から監視官が北朝鮮国内に派遣されるゆえ、海外ワクチンの受け入れを拒否していると予測されています。中国でコロナが発生し、北朝鮮は最も早く中国との国境を封鎖しました。人や物資の往來を統制しつつも、既に昨年の春の時点でコロナによる感染者数は、1万人以上を超えたとされています。感染者たちは重罪人のように扱われ、戸外へ感染者を出さないように、家の扉に釘を打ち付けて閉じ込め、一家全員が亡くなったケースもありました。また、不衛生な国家隔離施設に収容され、あまりにも食事や医療の提供が乏しく、回復することなく半数以上が亡くなったとされています。

### 全てを喰い尽くす獣

コロナを口実に国家は、統治の基盤を更に強化させる動きがあります。国境地帯の各村々では、多くの民防衛隊と軍隊が行き来し、住民たちを統制しています。それゆえに、住民たちは夕方6時以降は、軍隊などを恐れて外出できずにいます。国家は住民たちに、人民の安定と祖国の

安全を守らせるという名目で、少しでも行動が怪しい住民がいれば、積極的に申告するように促しています。その報酬として、誰かを申告すれば物品を与え、申告された相手はその結果、厳しい処罰を課せられます。それらの処罰によっては、些細なことにおいても公開処刑にされ、今、処刑によって、多くの尊い生命が北朝鮮で奪われています。飢えで苦しむ国民たちに、拍車をかけるかのごとく「報酬」をちらつかせ、互いに裏切り合い、殺し合うかのように仕向けます。北朝鮮国家は、統制によって人々を縛り上げるだけでなく、人間同士の信頼や温かな関係も破壊し、国民の生命だけでなく、心さえも全てを喰い尽くす、狡猾な獣と化しています。

### 砂の上に建てた国

北朝鮮国民たちを常に苦しめ、コロナにより更に彼らを苦痛に追いやっているものは、やはり飢餓です。国境が封鎖され、独裁権力を支え続けた中国間との密輸が断られたことにより、北朝鮮市場の物価は高騰しました。国民たちにとって唯一の生命綱であるチャンマダイ(闇市)も、その利権を政府が奪いました。現在、国民の75%以上が飢餓状態にあり、北朝鮮軍が打ち上げるミサイル一発の金額は、数十万人の1ヶ月分相当の食費に匹敵すると言われます。最近、政府は配給制度を復活させたものの、その配給価格は市場価格より若干安い値(市場が5,000ウォンの商品なら、配給所では4,000ウォン程度)で、国民に売りつけられています。人々は少しでも安く手に入れようと配給を並びますが、買うためには互いに押しのけ合い、負傷するような喧嘩も見られます。その配給では一人が5~7日ぐらい食べられるのがやっとです。配給があっても国民たちは、自分たちが収穫をした穀物で軍の米倉庫をいっぱいになければなりません。コロナ前は国境で密貿易することで市場が活性化し、資金がそれなりに流通していましたが、今はお金も無く、市場にある商品を誰も買うことができません。中国製品の付属品や乾電池なども手に入らないため、時計さえ止まったままです。このような状況にもかかわらず、党においては、今年は豊作のあまり、2022年はどうもろこしご飯を見ることもなく、白米を飽きるほど食べることができ、生活必需品も

溢れるくらい豊かな生活になると大々的に宣伝し、国民たちを欺いています。北朝鮮独裁政権は、世界にその国家権力を誇示するかのようミサイルを打ち上げ、軍事力発展を国際社会に見せつけてはいるものの、実際の国有財産は乏しく、国の人力は虫の息のようです。いつ足もとから崩れ落ちてても不思議ではない国、まさしく、北朝鮮国家は砂上の楼閣です。

### ミサイルより強く

創造主なる神様には、この砂の上に建つ国にどのようなご計画があるのでしょうか。一国民として生きるだけでも過酷な地で、北朝鮮キリスト者は、より壮絶な状況に身を投じています。この国の神の子どもたちのたましいもまた、神のことばと自分たちが立てたあかしのために殺され、祭壇の下に集められています(黙示録6:9)。しかし、北朝鮮の殉教者たちの血が種子となり、多くの地下教会を生み出したことも事実です。聖書を持つだけで処刑されるこの国ですが、コロナ禍に日本から20万冊の聖書が、北朝鮮へと飛ばたいていきました。日本のある所で一冊一冊、心を込めて印刷された聖書は、希望のない、飢え渴いた荒野に泉を与えています。それとともに、私たち一人一人の祈りの力が、この砂の上に建つ虚しい偶像の国から、岩の上に建つ生ける真の神、主イエス・キリストが勝利する国へと変えるのです。聖徒たちの祈りの炎は、どんなミサイルにも負けない絶大な力を誇ることでしょう。

「見よ。わたしは新しい事をする。  
今、もうそれが起ころうとしている。」  
(イザヤ43:19)

コロナ禍で統制によって締め上げられ、また、1990年代を超える飢餓状態にある北朝鮮国民のためにお祈り下さい。20万冊の聖書が神の御心の場所へたどり着き、豊かに用いられ、聖書を受け取った一人一人が守られ、イエス様の子とされるようにお祈り下さい。(つづく)



行進する北朝鮮女性兵士たち

## 英国

11月6日、英国BBC放送は普通では考えられない歴史的ジュエリーである「ミニ聖書」が、看護師のバフィー・ベアリー女史によって発見されたと報じました。発見場所は英国北部のヨーク市のある畑でした。BBCは彼女に、なぜその畑で宝探しを行なったかと尋ねたところ、その場所は歴史的な所で前から興味があったからと返答しました。発見時には夫のイアン・ベアリー氏も一緒でした。彼女は宝探しに際して金属探知機を用意し探し始めたところ、地中わずか10cmの深さで、重さ5g、大きさ1.5cmの宝物を発見しました。それは約600年前のジュエリーで、時価およそ2千万円とのこと。宝物のジュエリーはミニ聖書を開いた形で、リモゲスの聖レオナルドとアンテオケの聖マーガレットが両面に描かれています。発見場所は英国国王リチャード3世(1483年～1485年)が所有していた土地の近くで、ジュエリーは妊婦の守護聖人として愛用されたようです。BBCはこのジュエリーは女性の親族か、あるいはアンネ・ニヴィーレ夫人のものではないかと推測しています。雑誌「トレジャー・ハンティング」のジュリアン・イヴァン・ハート氏は、これは稀にみる非常に価値ある発見であると語り、別の場所でも同じようなジュエリーが発見され、約3千万円の値がついたと語っています。



発見された「ミニ聖書」

## ナイジェリア

北部のカドゥナ州で、66人のクリスチャンが武装集団によって誘拐されました。ニュースポータル「デイリー・トラスト」によれば、カカウダジのエマオバプテスト教会の礼拝中に起こった事件でした。その際、2人が銃殺されました。ナイジェリア・クリスチャン同盟のヨセフ・ハヤブ師は、誘拐されたクリスチャンたちは命の危険にさらされているため、政府と安全機関は事態を至急掌握し解決すべきであると声明を出しました。ナイジェリアでは最近、過激派集団と強盗犯によるこのようなクリスチャンとミッションスクールの子どもの誘拐事件が頻発しています。ほとんどの場合、身代金を払うことによって解決されています。人口2億人以上のナイジェリアで48%がキリスト教会員で、51%がイスラム教徒です。どうぞ、お祈りください。

## レバノン

オリエント(東洋)への支援活動が125年も継続することは稀なことですが、このほどその記念式典が行われました。首都ベイルートから東方約60km離れた小村アンヤールです。「オリエント支援活動会」の125年間の働きを記念し、125本のオリーブ樹が植林されました。アンヤールでは約3千人のプロテスタント系アルメニア人が、学校で支援を受けました。オリーブの木は和解と友情のシンボルです。ドイツからの支援活動は、1896年に



レバノンで行われた記念植林式

スタートしました。当時オスマン帝国支配下でアルメニア人は、迫害を受け社会から除外されていました。彼らへの支援活動が続き、今日ではシリア、イラク、アルメニアへと支援活動は広がってきました。この支援運動に参加してきた団体は、ヘッセン州ディアコニー団体(奉仕女)、AEG(プロテスタント・ワーキンググループ)、EMW(プロテスタント福音宣教会)などです。

## モルドバ

1990年に独立したモルドバ共和国はヨーロッパ最貧国の一つに数えられています。これまで欧州のキリスト教宣教団体は支援活動を続けてきました。スイスの宣教団体AVC(迫害下と困窮下にある聖徒への支援団体)は、25年支援活動を続けてきました。モルドバ国会議長イゴール・グロス氏はAVC代表ダニエル・ホーファー師に長年の支援に対する感謝状を贈りました。ホーファー師は「私たちの働きがこのように評価され光栄に思います。」と語り、グロス国会議長と面談時に議員と関係者に聖書を贈呈しました。AVCは必要をかかえる家族、子ども、青年、年配者たちへ様々な支援活動を続けており、彼らの働きは世界60カ国以上に広がっています。お祈りください。



グロス国会議長(右)から感謝状を受けるホーファー師

## マリ共和国

マリ共和国は西アフリカに位置する内陸国で、金が豊富で最大輸出品目として65.9%をしめています。これがムスリム商人との取引を盛んにしてきました。そして多くの国民がイスラム教を信仰しています。かつてはフランス植民地で、1960年に独立しました。そのため公用語はフランス語です。1人あたり国民総所得は770米ドル(2017年)で、世界最貧国の一つとなっています。

マリではクーデターや誘拐事件が頻繁に繰り返し発生しています。カトリック教シスターであるグロリア・セツリア・ナルヴェッツ・アルゴチ(コロンビア出身)は、5年前に誘拐されました。バマコにあるマリ政府の情報によれば、昨年10月にジハード(イスラム教法規)を重視するイスラム教過激派組織から、シークレットサービスの武力によって救助されました。身代金が支払われたかは不明です。シスター・ナルヴェッツは釈放後、記者会見で次のように証言しました。「私はいつも詩篇のみことばを暗唱していましたので、囚われの身でありましたが信仰が強められ神に祈ることができました。教会と全世界の聖徒たちが私のためにお祈りくださり、大変強められました。ほんとうに感謝しています。」誘拐犯たちはシスターに対し尊敬心を持って接したそうです。シスターは、2017年マリとブルキナファソとの国境で、イスラム教テロ組織「アルカイダ」によって誘拐されました。マリでは2017年以来930人が誘拐され、その内300人以上が昨年誘拐されました。どうぞ、お祈りください。



釈放されたシスター・ナルヴェッツ

## ドイツ

16年間ドイツ政権を先導してきたCDU/CSU(キリスト教民主同盟、キリスト教社会同盟)は、メルケル首相退陣で力を落としてつあるようです。ドイツ社会は変わりつつあります。最大の問題はドイツ・プロテスタント国教会の教会員数が、1950年(会員数4千120万人)に比べて、現在約半数(2千20万人)減少したことです。この期間にイスラム教は急成長し、ケルン市で見られるように、モスクから金曜礼拝の祈祷呼びかけが拡声器で行われるようになりました。今、多くの都市において、「アラーの神以外に神はいない」と声が響きわたっています。1950年には無宗教者(他の宗教信者も含む)数が約100万人であったのが、2020年には4千70万人に増加しています。宗教改革者マルチン・ルターを生んだ国は、今異教社会となりつつあります。

ドイツ国教会の「教会会議」では信徒数減少の原因を探り、その対策に努めていますが、最大の原因は教会がキリストの福音を語り伝えてこなかったことであると発表しました。宣教(伝道)がなされていなかった結果であることは誰もが認める事実です。第1に国教会指導者に問題があったこと。第2に幼児洗礼者数が減ってきたこと。第3に牧師の神学的理解に問題があったこと。第4に神学教育そのものにも問題があったこと。第5に教会税が義務化されたこと等が上げられています。イエス・キリストの世界宣教命令「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。」(マルコ16:15)に従順であることは、どんなに重要であるかが問われています。お祈りください。



宣教師釈放を叫ぶプロテスタント信徒たち

## ハイチ

米国政府は、ハイチで誘拐されたキリスト教宣教師とその家族が無事であることを確認しました。「クリスチャン・ポスト」によれば、かなり高いレベルの高官が身柄の安全を確認したと言われます。誘拐事件は10月16日、16人の米国籍宣教師と1人のカナダ国籍宣教師が、首都ポルトープランス近郊の孤児院で起こりました。誘拐犯は犯罪集団「マヴォツォ」でした。この宣教師たちは「クリスチャン・エイド・ミニストリーズ」(本部:米国オハイオ州ミレンパーク)から派遣された人々です。5人の男性、7人の女性、そして5人の子どもたちも含まれていました。地元メディアの報道によれば、犯人たちは要求金約2億円が支払われなければ、人質を1人ずつ撃ち殺

していきと脅迫しています。カリブ海の国では世界で最も多くの誘拐事件が発生しています。昨年度9月までに628件の誘拐事件が発生しましたが、前年同時期では231件の事件数でした。ハイチ人口1千130万人の約55%がローマカトリック教徒で、30%がプロテスタント教徒です。しかしメディアの報道によれば、世界中で増えている西アフリカのブドゥ教の影響を国民の約75%が受けていると言われてしています。どうぞ、この国のためにお祈り願います。



カブールのタリバン戦闘員

## アフガニスタン

昨年8月、政権がイスラム教過激派組織「タリバン」に移行して以来、アフガニスタン情勢は劇的に変化しています。これまで多数のアフガン人が祖国を離れ他国へ避難しましたが、避難できない多くの人々がいます。最も厳しい情勢下に置かれているのは現地クリスチャンたちです。全てはシャリア(イスラム教法規)によって、暴かれ罰則が及びます。イスラム教が唯一の正しい宗教と信じきっている彼らは、他の信仰者を必死に捜し出し、発見しだい厳罰を与えています。そこで公にキリストへの信仰を告白することは、死刑を意味します。彼らは常にタリバンの恐怖下に置かれています。その人数は不明です。多くのクリスチャンは地下に潜り信仰生活を保っています。今、西側からのSNSによる霊の養いが唯一の糧です。しかしそれは非常に危険が伴うことです。また女性の人権と地位はまったく認められず、彼らが指導的立場に立つことは禁じられています。西側文化圏に住む人々には理解できない大きな壁があります。どうぞ、アフガニスタンの聖徒を覚えてお祈りを願います。



タリバン政権下で苦しむ女性たち

## インド

ヒンズー教国インドでは、とくに過激派集団によるクリスチャンとキリスト教会への迫害が高まっています。前年9月まで、一昨年より300件以上迫害が増えています。クリスチャンの信仰の自由は大きく損なわれています。これはインターネット・プラットフォームの「クリスチャン・ポスト」の報告です。一方、米国外務省内にある「国際宗教の自由委員会」の発表でも、インド、ロシア、シリア、ベトナム等の国々では、前年度に比べて迫害件数が増加したと報じられました。インドではヒンズー・ナショナリズム政党が勢いを増しており、政治的にも信仰の自由が全インドでいきわたるようお祈りください。

## ミッション・宣教の声 *The Voice of Mission*

〒541-0041 大阪市中央区北浜 2-3-10 V I P 関西センター 5F  
TEL:06-6226-1334 FAX:06-6226-1336  
E-mail: senkyo@vomj.jp http://vomj.jp/

発行人 黒田禎一郎  
年間購読料 ¥2,500(送料込)

郵便振替口座 00940-3-301623  
銀行口座 三菱UFJ銀行 堺東支店(店番205)  
普通口座 3623132「ミッション宣教の声」

The Voice of Mission  
MUFG Bank, Ltd. Sakaihigashi Branch  
Bank account No.3623132 SWIFT CODE: BOTKJPJT  
Bank Address: 59-2 Mikunigaoka-Miyukidoori, Sakai-ku,  
Sakai-shi, Osaka-fu 590-0028 JAPAN TEL:81-72-221-3041



編集後記



- 新年が明けました。本年も主にあって、どうぞよろしくお祈りします。今年も、主様の祝福が皆様の上に注がれますようお祈りします。
- 世界はますます暗闇化し誤った異端の教えが拡散し、多くの人々が惑わされています。理不尽なことも多々起こり、生きる勇気を失う人々も現れています。キリストの福音宣教は急務となっています。
- 世界では新型コロナウイルスのオミクロン変異株が発見され、感染リスクが高まっています。主様のお守りがありますように祈ります。本年も世界のニュースをお届けしますので、どうぞ祈り覚えてください。感謝。